

清水家通信

めざせ！大高緑地公園

九月二十五日、残暑が厳しいこの日、ボツリと言った一言に、副編集長である妻は頭を高速回転させたらしい。

「釣りもいいけど・・・」

「釣りも、モ」って何だろ

「モ」って？。今日は絶対「釣り」って言つと思つたのに、他にやりたいことって何だ？」と思つたよつだ。

王滝渓谷のハイキングが中途半端に終わったので、息子をどこかで歩かせようと思つていた。

「大高まで息子と歩いてみたいんだ！（笑顔）」

ちよつときついかなとも思つた。だって、自分が中学の春の遠足が大高緑地で、結構遠かったような記憶がある。妻は案の定ビククリしていた。

息子はというと、以前、自宅から緑区のホームセンター「エンチヨー」まで歩いた「ミニハイキング」の事がとても印象に残っていて、またいつかもう少し遠い距離を歩いてみたいと言っていたので、この話には乗ってけると思った。しかも大高緑地には息子の大好きな



「いいねえ。行く。」

「二つ返事だった。買ったばかりのデジカメ一眼と、息子はお下がりデジカメを持って、ハイキングは始まった。家から真つ直ぐに南へ向かい、桜台高校の脇を通り、笠寺公園・見晴台古墳跡を通り過ぎ、リブリーたちがお世話になつてゐる獣医さんの前を横切り、笠東小から天白川堤防、赤坪町、鳴海山下に到着。ここがほぼ中間地点だ。インターネットで手に入れ、パソコンでつなぎ合わせた地図を見ながら、結構いいペースで歩いてきた。地図を見るのも好きだし、車から見る風景を覚えていて、地理も申し分ない。鳴海山下からは、旧東海道を名鉄の鳴海駅方面へ向かい、というところで息子のペースが落ちた。というより、少し歩くことに飽きてきたような感じだった。思つた以上の残暑の厳しさに少しへばつ



水分を取つて元気になつた後は、もうへばることは無かつた。一気にゴールの大高緑地へ駆け込んだ。特に息子のペースに合わせるべくゆつくり歩いたわけでもないのに、本当によく歩いたと思つた。

鳴海駅を過ぎたあたりで妻に電話を入れる。現地で待ち合わせる予定だった。ゴールして程なく妻が車で登場。エアコンの効いた車で待つていたのは、妻のこしらえたおにぎりのお弁当。思つてもいない昼飯に歓喜の父子。うまかつた。文句無くうまかつた。ハクのおにぎりに、涙しながら食べた千尋の気持ちがよくわかつた。息子も同じ意見だった。「超うめえー」

職場でこの時の事を話したことがある。「それはいいことをしたよねー」とある人が言ってくれた。

発行所
清水家通信本社
編集長 清水(夫)
副編集長 清水(妻)
<http://hopepage2.nifty.com/atHomeShimizu>
購読のお申し込みはこちらへ
mega.shimizu@nifty.ne.jp



息子もいつか自分の子供をそのかして、ハイキングに連れ出すことがあるのだからか？案外こんなことが、世代を超えて受け継がれるのかも、なんて少し大げさなことを考えた。

わずか7キロ、2時間弱のミニハイキングであつたが、大きな思い出の一つになつた。(編集長)

大型台風名古屋直撃！

臨時休校とアップルパイ

十月二十日、大型台風二十三号が勢力を維持したまま名古屋を直撃した。

再接近したのは夜八時頃だつたが、強風圏が非常に大きかつたため、暴風警報が発令されたのは、なんと朝八時直前だつた。

息子は学校へ出かける直前の「自宅待機」にニンマリ顔。

こうして長い暇な一日が始まつた。

さて、この有り余る時間をどう使おうかと思いを巡らし、ふと思いついたのがアップルパイ。

たいした風ではないけれど警報が出ているので外に出るのは考え物。家にある材料で子供と一緒に楽しめるもの、それがアップルパイ作りだつた。

お菓子作りは、トホホとい



は、トホホとい

学校開放ウィーク

十月二十一日・二十二日と学校の様子を長時間にわたつて見ることが出来る学校開放週間が、昨年に続き今年も開かれた。

二日間で合計六限の授業を参観することが出来る。書道や算数など担任以外の授業や少人数学級の授業も見ることができた。

限の単発の



今年も、おじいちゃんも作つたさつま芋がたくさん取れた。

今夏は、猛暑で水が不足し、一時は出来が危ぶまれたが、その心配を拭い去るような豊作だつた。

「みんな」と思つたのに従妹は悪く、私も崩してしま

息子はそ頑張つて芋の分もを掘つた。

自分の手で掘つた芋はやっぱり美味しい！焼き芋にしたり、鬼まんじゅうにしたり、食卓で大活躍である。「おじいちゃん、来年も楽しみにしてるよ！」



今年も取れたよ！

今年も、おじいちゃんも作つたさつま芋がたくさん取れた。

今夏は、猛暑で水が不足し、一時は出来が危ぶまれたが、その心配を拭い去るような豊作だつた。

「みんな」と思つたのに従妹は悪く、私も崩してしま

息子はそ頑張つて芋の分もを掘つた。

自分の手で掘つた芋はやっぱり美味しい！焼き芋にしたり、鬼まんじゅうにしたり、食卓で大活躍である。「おじいちゃん、来年も楽しみにしてるよ！」